



▲信長の龍ヶ鼻陣所跡

信長は龍ヶ鼻に陣を布き、27日には姉川南岸に布陣しました。28日未明、姉川を前に浅井軍は野村に、朝倉軍は三田村に布陣しました。織田信長率いる二万の大軍には浅井軍五千（八千とも）が、徳川家康軍五千には朝倉軍八千（二万とも）があたりました。

「信長公記」に元亀元年（1570）6月28日「諸方よりいっせいに敵勢ともみあいとなつた」と書かれています。この日も合いから28日早朝、戦端は開かれました。浅井軍は磯野丹波守員昌が先鋒の将として織田軍にいどみ、織田軍の先鋒坂井政尚率いる二千の軍と激しく戦い

これを破りました。浅井軍は柴田勝家や木下秀吉の軍を次々に破り、信長の陣まで迫ったと言われています。浅井・朝倉軍は緒戦を有利に進めました。浅井・朝倉軍は、雨森次右衛門尉、浅井雅楽助、浅井齋らが、朝倉軍は、真柄十郎左衛門、子の十蔵、黒坂備中守らが討ち死にしました。浅井氏の重臣遠藤喜右衛門は形勢が不利になった時、浅井の武將の首を持ち、織田軍の武將と偽って織田信長のそば近くまで行きましたが、竹中半兵衛の弟久作に見破られ討ち取られたと伝わっています。信長は合戦の様子を將軍足利義昭に「野も田畠も、死骸ばかりに候」と報じています。いかに激しい戦いであつたかがうかがわれます。

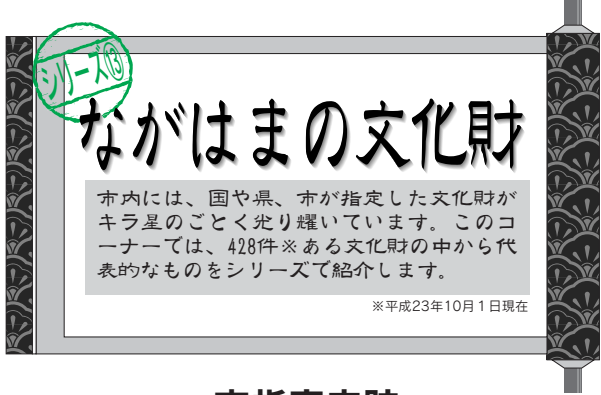
姉川の合戦の場所は、現在の姉川を挟んで、北は野村町の南東付近から西にかけて三田町の中ほど付近、南は横山の龍ヶ鼻付近から西に三田町の対岸の一带と考えられます。野村町には浅井長政が布陣したと伝えられる「陣屋橋」、戦死者の血で赤く染まったと言われる「血川」、三田町には朝倉軍と徳川軍の激戦地と言われる「血原」の地名が伝えられています。また、浅井氏の重臣三田村氏の館で、朝倉軍の陣所となつたと伝えられる

問文化財保護センター
(☎64-0395)



▲江州姉川合戦図

三田村館跡があります。龍ヶ鼻付近から南の勝山付近には、信長が最初に陣を布いたと言われる「龍ヶ鼻陣所」、信長の本陣と伝えられる「陣杭の柳」、徳川家康が布陣したと伝えられる「勝山」があります。横山の南東には遠藤喜右衛門が討ち死にしたと伝えられる場所に、墓が建てられています。旧野村橋の北橋詰めには「姉川戦死者之碑」と「元亀庚午古戦場」の石碑が、三田町の姉川堤防沿いには「姉川古戦場跡」の石碑が建てられています。なお、この合戦を戦った土地の名から、浅井方・織田方は「野村合戦」、朝倉方は「三田村合戦」、徳川方は「姉川の合戦」と呼んでいます。



市指定史跡 姉川古戦場跡

「5月も女性の月？」



長浜市国際交流員
エバートン

皆さん、こんにちは。ブラジルの5月と言えば、母の日を思い出します。日本と同じく、第二日曜日に祝います。また、母の日に関連して、カトリック教会では、5月は聖母マリアの月と定めています。それ以外に、5月は「花嫁の月」と言われています。植民地の時代、ポルトガル文化の影響を受けており、北半球には春が訪れ、花がたくさん咲くことから、女性を連想し、「母」、「新婦」の月と言われるようになりました。また、5月に結婚すると、聖母マリアに守られ、幸せになると言われています。

けれども、現在、12月に結婚するカップルが5月より多いです。なぜなら、12月はボーナスや夏休みがあるため、結婚式を挙げるには最適だからです。つまり、伝統が経済に負けた結果となりました。前回のコラムでは、「3月は女性の月」と書きましたが、どうやら、ブラジルは5月も「女性のイメージ」が強いです。一方、日本では、鯉のぼりを男子の健やかな成長を祈願していることから、5月は「男性のイメージ」が強いです。これからも日本とブラジルの文化の違いや共通点について、考えていきたいと思います。



ブラジルの結婚式ケーキに、幸せを重なる意味で、新婦のトップに新郎のトップを飾るのが一般的です。

ワンポイント
ポルトガル語講座
ノイヴァ
Noiva→新婦

問市民協働推進課 (☎65-8711)

～ドイツ・アウグスブルク市への訪問～ 長浜市青年使節団員募集

姉妹都市であるドイツ・ロマンチック街道のまち「アウグスブルク市」へ「長浜市青年使節団」を派遣するために団員を募集します。

- 【派遣期間】 8月25日（土）～9月4日（火）11日間
- 【応募資格】 平成24年4月1日現在、満18歳以上30歳未満の市内在住者で、健康かつ団体行動に協調できる人
- 【募集人数】 8人（申込多数の場合は抽選）
- 【締め切り】 5月31日（木）必着
- 【参加経費】 1人あたり約23万円（市より最大で10万円支給します。なお、参加経費が変動する場合があります。）
- 【応募方法】 申込用紙に必要事項を記入のうえ、直接持参、郵送、Eメールのいずれかで下記まで。申込用紙は、市民協働推進課にあるほか、市ホームページからダウンロードすることもできます。※詳しくは市ホームページをご覧ください。

問市民協働推進課 (☎65-8711、FAX64-0396、Eメール kyoudou@city.nagahama.lg.jp)

長浜市多文化共生のまちづくり指針 策定委員募集

市では、国籍や文化の違いにとらわれず、誰もがいきいきと暮らせる多分化共生のまちづくりを進めており、これらを総合的かつ計画的に推進するため、「多文化共生のまちづくり指針」を策定します。

この指針策定にあたり、一緒に考えていただける人を募集します。

- 【対象】 市内在住または在勤の18歳以上で、多文化共生社会などに関心のある人
- 【募集人数】 2人以内
- 【活動】 4回程度開催する会議への出席（報酬有）
- 【任期】 指針策定まで（平成24年12月を目途に策定予定）
- 【応募方法】 応募用紙（市民協働推進課・各支所地域振興課にあります。市ホームページからダウンロードも可）に必要事項を記入し、5月25日（金）必着で、持参・郵便・FAX・Eメールのいずれかで提出ください。

JR木ノ本駅前団地
(駅から徒歩約5分)

分譲宅地のお知らせ

若い人たちが湖北地域にいつまでも住み続けられるよう、滋賀県住宅供給公社が開発した「JR木ノ本駅前団地」の現地案内会を開催します。

販売価格は、1区画53万4千円（201.43㎡）69.7万円（249.02㎡）で、建築条件なしの宅地です。

現在、先着順にて受付中です。詳しくは次まで問合ください。

現地案内会
とき
5月19日（土）・20日（日）
10時～16時
ところ
JR木ノ本駅前団地
(長浜市木之本町黒田字桶那田)

問滋賀県住宅供給公社
企画管理課
(☎077-5222551)
※現地案内期間中のみ
(☎090-303213886)
長浜市北部振興局
地域振興課
(☎82-5900)